

2024.05.05. 聖書的な友情 Mac 牧師

頭を下げ、私と一緒に祈りませんか？ おお、主よ、私たちが一緒になることができる、なんという時でしょう。主よ、あなたが惜しみなく、恵み深く祝福して下さったこの美しい場所で。主よ、私たちの兄弟姉妹とともに、霊とまことをもって、あなたというお方を礼拝し告白します。主よ、この時間を祝福し、教えを祝福して下さいますか？ 主よ、マック牧師とその家族、レイトゥ牧師とその家族も、彼らがここに立ち、御言葉を伝えるときに引き上げて下さいますか？彼らに勇気を与えてください。主よ、彼らがどこにしようとも、彼らに力を与え続けてください。今日、あなたの御言葉に私たちが理解できるよう祝福してください。イエスの御名によって祈ります。アーメン。

主を賛美します。ご着席ください。聖人と罪びとの皆さん、おはようございます。ー（会衆：笑）ー

ね？ ー（会衆：はい）ー この一言は忘れてはいけませんね。私たちは聖人の部分が大好きでしょう？ しかし、私たちはみな罪びとです。JD ファラグ牧師に代わって、今朝の日曜日、ここカルバリー・カネオへ、そしてライブ配信礼拝によるこそ。初めて訪問される皆さん、特別な歓迎を受けるとともに、ここでの温かい愛と、キリストにある仲間の姉妹たちから受ける交わりに祝福されていることを祈ります。今週の火曜日、午後7時から礼拝堂で行われる祈り会について、皆さんにぜひお知らせしたいと思います。もし可能であれば、ぜひ来て、家族で共に祈りましょう。この暗く悪魔的で邪悪な時代に、私たちは本当に祈りが必要です。どう考えても、これ以上良くなることはありません。だから、来れる方は来て、みんなで祈りましょう。日曜日には2つの礼拝があって、通常、第一礼拝は「聖書預言・アップデート」、第二礼拝は「説教」に専念します。しかし、今日の第一礼拝では、「ヨハネの福音書 15 章」へ皆さんをお招きし、12 節から取り上げます。また、今朝の箇所を聖句朗読のために、可能な方はご起立ください。続いて祈りの言葉を捧げます。繰り返します。「ヨハネの福音書 15 章」です。神の御言葉は語ります。12 節、

ーヨハネ 5：12ー

わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合うこと、これがわたしの戒めです。

ーヨハネ 5：13ー

人が自分の友のためにいのちを捨てること、これよりも大きな愛はだれも持っていません。

ーヨハネ 5：14ー

わたしが命じることを行うなら、あなたがたはわたしの友です。

ーヨハネ 15：15ー

わたしはもう、あなたがたをしもべとは呼びません。しもべなら主人が何をするのか知らないからです。わたしはあなたがたを友と呼びました。父から聞いたことをすべて、あなたがたには知らせたからです。

祈って、今朝のこのメッセージへの主の祝福をお願いしましょう。天のお父様、あなたの御名の御旗の下に、私たちが平安のうちに集うことができることを、心から感謝します。あなたの御言葉を聞くためです。主よ、御言葉を聞くだけでなく、私達の心に留め、刻み込んでください。そして、私たちが御言葉のより良い管理者となり、キリストのより良い大使となれるように、私たちの魂の奥深くに留まりますように。ですから、主よ、あなたの聖霊の御力によって語り、あなたの強さと御力で私たちの前をお進みください。救世主イエス、イエシュアの力強い御名によって祈ります。アーメン。ありがとうございます。どうぞご着席ください。今朝の教えのタイトルは『聖書的な友情』です。聖書における友情のいくつかの側面を描写するために、これらの有名な聖書箇所をアウトラインとします。言うまでもなく、私たちの人生において、敬虔な友人、友人達を持つことはとても大切です。結婚している私たちにとっては、言わずと知れたことですが、私たちの最良の敬虔な友人のひとは、自分の結婚相手であるべきです。私は、これがクリスチャンの結婚の最も弱い部分だと思っています。このことは何度か述べたことがあります。繰り返して出てきます。だからもう一度言います。私たちは、結婚生活のなかで友人でなければなりません。夫婦関係が破綻し始めるのは、愛がなくなるからではなく、好意が足りないからです。いえ、だって嫌いな人のそばにはいたくない

から。でしょ？ でも、彼らの身に何かあったら、「そう、彼ら愛しているの。」となる。－（会衆：笑）－
－ 何？ 私が正しいと知っているから笑っているんでしょう？ －（会衆：笑）－ つまり、友情は、感情の絆がある場所なのです。友情には、多くの時間と手間と忍耐が必要です。そして、弟子たちを友と呼ぶお方が語られたこの聖句が、私たちの表面的で恥ずべき友情観をさらけ出すことを祈ります。特に、神の御言葉に基づく友情が真にどのようなべきかを踏まえつつ、で、信じてください。今日はここに、皆さん全員を不愉快にするものが十分ありますよ。－（会衆：笑）－（ふふっ）誰も逃げられません。－（会衆：笑）－ だから、神を真理とし、すべての人を嘘つきとしましょう。まずはここから始めましょう。「箴言 27 章 5 節」にこうあります。神の御言葉は仰せられます。

－箴言 27：5－

あからさまに責めるのは、ひそかに愛するより良い。

率直な叱責とは、たとえ私たちがそれを聞きたくないとしても、正直です。そして、率直な叱責は意図的な論争を伴いません。違います。それには意図的な懸念が伴います。その違いがお分かりですか？ そして私たちは皆、薄っぺらい友情を懸念すべきです。まあ、それをありのままに言いましょ。私たちのいわゆる聖書的友情は、むしろよそよそしく、無頓着な付き合いのように見えます。事実です。私たちが多くの友人を持つ必要があると言っているわけではありません。断じてそうではありません。しかし、これは友人を持つべきだということで、この地上の友人、個人的な友人を。そして、友人になるすべを知る必要があります。それは友情を築き、維持することも含みます。そうすれば、家族内で健全な友好関係を築くことができます。と、言ったところで、私たち皆で叱責を受けましょ。なので、気を引き締めてください。12 節から始めます。神の御言葉は語られます。

－ヨハネ 15：12－

わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合うこと、これがわたしの戒めです。

初っ端からすでに私達は問題を抱えます。その根底にあるものが見えますか？ 愛。しかも、ただの愛ではありません。こんにちの私たちの"愛"という言葉の使い方のゆえに、私はそう言うのです。私たちは愛に基準を設けなくなった。私たちはこの言葉を何にでも使います。私たちは皆、それについてもっと注意深くあるべきです。ここで表現されている愛の種類は「神の愛」だからです。忘れないでほしいのは、これを聖書的な友情という文脈に留めなくてはならないことです。考えてみてください。これは崇高な使命です。本当にそうです。そして、それはとても心を揺さぶるものであるべきです。というのも、私自身、この分野で失敗しているからです。正直になりましょ。私たち全員が、日々留意する必要があります。私たちはこのように捉えなければなりません。そして注目すべきは、イエスがここで他の 11 人と交わすこの会話には、ユダが加わっていないこと。ユダはすでに汚い行為に及んでいました。なぜか？ ユダには他人を愛せるだけのイエスの愛がなく、自分のことしか考えませんでした。それは私たちのこと？ だから、この訓戒は、他の 11 人に与えられました。彼らには愛があったからです。私たち全員がそうであることを私たちがこの命令に従うことを祈ります。そうするとき、私たちは、聖書的友情の核心は、友人や友人となる人たちに映し出されるキリストの愛を持っていることだ、と示しているからです。皆さん、それが分かりますか？ 私がこう言うとき、よく注意して聞いてください。この命令は、キリストにある兄弟姉妹への接し方に関する最低限の条件だと考えるべきです。キリストの愛を持ち、映し出す。キリストの愛は、おとなしく眠っている愛ではありません。いいえ、完全な愛です。たとえそれが困難なことであっても、神の御心を行おうとする愛。イエスがここで弟子たちに語っておられるにもかかわらず、この互いへの愛は、私たちが主の弟子であることを証明するだけでなく、私たちを最も偉大な命令へと一致させます。「心を尽くし、知恵を尽くし、力を尽くして主を愛すること、また、隣人を自分自身のように愛すること。」（マルコ 12：33）

このことを本当に考えるなら、私たちはこの種の愛が友情を育む間に存在すべきものだと認識するはずで。皆さん、ついてきていますか？ これは一番最初にあるべきもの。深く長く続くはずの友情が築かれないうおもな理由は、この欠如にあるのではないのでしょうか？ 私たちは、そのような反応を示すキリストの愛を表現さえできない。だから何も閃かない。繰り返しますが、私たち一人一人が多くの人と交友関係を持つという話ではありません。違います。私たち一人一人が、多くの人のうちの少なくとも一人と深く、長く続

く友情を持つことについてを話しています。皆さん、ついてきていますか？ また、このような友情は家族以外のものであることにも注目すべきです。聞いてます？ そうすれば、私たちは自分達の世界の外へ出ることになり、そうすれば、私たち家族のためにもなります。この循環が分かりますか？ そしてそれは、真の友人だからこそできることで、今から分かります。実際、本文の次の節は、私たちをその方向へと駆り立てるでしょう。神の御言葉をお読みします。

一ヨハネ 15：13一

人が自分の友のためにいのちを捨てること、これよりも大きな愛はだれも持っていません。

私たちの多くは、私たちに示されたこの史上最高の愛に共感しているはずですが、十字架上で命を捨て、全人類のためにご自分を捧げ、ご自分の友としてくださるお方によってなされた御業に。そう、人類の多くがイエスを敵視していたにもかかわらず、イエスはそうされたのです。で、そのような観点から見れば、重要な実用的応用も見いだす限り、まったく問題ではありません。その文脈に基づいて、イエスはそうであられ、私たちにも、友人であることに伴うこの無我の姿勢をお与えになられたのです。それが示されています。命を捨てることについて、ある人は言います。引用：「・・・自己犠牲と友愛としての死の代表的な形である」そういうことです。実証する愛とは、私たちが示すものをもとに、分かるのです。そして、この種の愛は、実際に命を捧げることに帰結します。でもこれがおもな教訓ではありません。これは、キリストにある自己犠牲的な友愛を実証しています。忘れないでください。イエスは全ての人のために死なれました。すべての人のために。「ローマ人への手紙 5 章 6 節から 8 節」で、神の御言葉はこの点を指摘しています。私たちがこの箇所を理解できるように、私たちに知らせるためです。ですから、私たちはこの一節をこんな風に思っ
て見てはいけません。「おお、私たちは肉体の命を捨てるんだ。」そうなる可能性はありますが、問題はそこではありません。神の御言葉をお読みします。

一ローマ 5：6一

実にキリストは、私たちがまだ弱かったころ、定められた時に、不敬虔な者たちのために死んでくださいました。

皆さん、それが分かりますか？

一ローマ 5：7一

正しい人のためであっても、死ぬ人はほとんどいません。善良な人のためなら、進んで死ぬ人がいるかもしれませぬ。

一ローマ 5：8一

しかし、私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死なれたことによって、神は私たちに対するご自分の愛を明らかにしておられます。

ポイントが分かりますか？ 友のために命を捨てることは、聖書的な友情で示された私たちの無私の行為として、判断されることを示すためです。もし私たちが、友人たちの向上のために自分自身の何かを犠牲にしていなかったら、では、私たちは本当に友人なのですか？ 考えてみてください。命を捨てるというのは、一方通行ではありません。私たちは皆、友だちに振り回されることなく、自分が与えたものや友だちから与えられたもの、あるいはその両方に驕ることなく無私の心で与え、受け入れ、厭わないべきです。神の御言葉を知り、神の御言葉に従えば従うほど、私たちは互いに、そして神ご自身にとってもより良い真の友となります。アブラハムは、神の御言葉を信じたことで、義として認められました。彼は、神の友と呼ばれたのであって、その逆ではありません。それは、私たちが知るべき重要な鍵です。神の、友。このことは、本文の 14 節に結びつきます。神の御言葉は仰られます。

一ヨハネ 15：14一

わたしが命じることを行うなら、あなたがたはわたしの友です。

皆さん、分かりましたか？ ここで、イエスがすでに彼らに命じていたことを振り返るだけで、この節は解決すると私は思います。でしょ？「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合うこと」（12節）ここでは、これを現実にすることを強調するようなものがあります。これは、友情に対する聖書的アプローチを真摯に受け止めよという呼びかけとも言えます。どうすればこのようなことが可能になるのか、誰も想像する必要はありません。聖霊は、聖書的な友情を築くための「なぜ」、「どのように」、「何をすべきか」、そして「何をすべきでないか」の公式の青写真を捉える為、聖典を記す人々を導かれたからです。私たちは神の御言葉全体を通してそれが分かります。そして、私たちがそれらに耳を傾け、実行するならば、私たちは真にイエスの友です。留意ください。イエスは、こうは仰りませんでした。「私たちがそのようにしたなら、イエスが私たちの友である。」とは。イエスが仰ったのは、「私たちがそのようにしたなら、私たちがイエスの友である。」です。イエスは敬虔な友情を体現し、あらゆる面でこの重要性を教えてください。しかし、最終的にはイエスは私たちの救い主であり、私たちの言うことを聞いてご自分の友情を証明する必要はありません。さあ、私たちの中には、違う考えの人がいますね。おそらく、それが問題の一端でしょう。私たち一人ひとりが友情を築くためには、互いに神の命令に答えることが求められます。しかし、神は友情の創造者で、そのお返しは求めておられません。全く。ゼロです。気をつけなければならないのは、神を、私たちの友好関係へと引き下げないこと。私たちが"イエスは私の友"と言いたがるのも知っています。でもそう言う時、まったくその通りとは言えません。違いがわかりますか？ 小さな誤引用ですが、大きな意味があります。現実には、私たちが"イエスの"友となる必要があります。それはイエスが命じられたことを実行することで証明されます。この現実から逃れることはできません。私たちは皆、申開きをされます。ですから、みんなで、もっと気分を害しましょう。—（笑）— さらに不快になりますよ。—（笑）— 友情に関して、多くのクリスチャンに共通するテーマを取り上げます。友達なんていないという態度。あるクリスチャンがこう言ったのを聞いたことがあるでしょ。あるいは、逃げ切るためにこう言う。「私に必要な友はイエスだけだ。」おっと！ さっきの話聞いていなかったの？ あなたはイエスを自分の友達にしようとしているの？ ふむ。。へ～違います。私たちがイエスを自分の友にすることはできません。そういう仕組みではありません。いい響きですけど、そういうことにはなりません。おお、私たちにはイエスにおける友がいます。私たちが、イエスの友ならば。皆さん、違いがわかりますか？ なぜなら、その逆をすると、今や自分がコントロールしているのだから。おお、そうですか。（笑）言っておきますよ。それは逃げです。定められた人類の社会的構造については、聖書的ではありません。神は、人が独りであることは良くないと仰いました。（創世記 2：18）

そしてこれには全人類が含まれます。でも、友人に傷つけられたり、悪いことをされたりしたら、私たちはどうです？「あなたは私の痛みを知らない。」ええ、分かりません。私はあなたの痛みがわからない。まったくその通りです。残念です。私たちが経験したことのせいで、友人など必要ないと言うのが正当だと思えるような状況もいろいろあります。しかし忘れてはなりません。私たちの感情ではなく、神の御言葉が基準なのです。これらの問題を乗り越えるのは難しいけれど、私たちは主を求め、乗り越える必要があります。ダビデ王は、アヒトフェルの裏切りを乗り越えなければなりませんでした。（II サムエル 16, 17章参照）

言うまでもなく 救い主ご自身がユダに裏切られました。それでも私たちは、イエスが経験されたすべてのことの後に、イエスの友になるよう招かれています。だからこそ、イエスのおかげで、私たちはこれを歌うことができるのです。慈しみ深き、友なるイエスは ♪ What a Friend We Have in Jesus ♪（直訳：イエスにおいてなんとという友がいるのか）過去の傷を乗り越えるのが容易でないことは誰もが知っています。しかし、それは可能だし、実行する必要があります。私たちの人生には、結婚していても、夫や妻以外の誰かが必要で、結婚していない人は、肉親以外の誰かが必要です。聖典の中で、神が「人は独りいるのはよくない」と仰った後、人が独りであることを奨励されたことは一度もありません。それは、一時期一人にならないとか、主と二人きりになる時間が必要じゃないという話ではありません。私が言っているのはそういうことではまったくありません。私が言っているポイントは、自分の親友がペット、車、趣味、仕事、あるいは自分自身。私たちの多くはこうです。教会に来て、一人で座って、誰とも話さず、メッセージを受け取ったら、ドアを開けて走り出す。誰とも話さず、知り合わない。そうするならば、実がありません。つまり、教会に来て、少なくとも会話のどこかで霊的なことについて実際に話し合うならば、どれほど斬新でしょうか。なぜ神の教会に来て、神について何も話さないのですか？ それなら家に帰りなさい！！ —（会衆：笑）— たまに社交的な外出をしたり、職場の同僚と会話をしたりする程度ではダメです。私たち一人ひとりに、絆

を深めることができる親愛なる神の友が必要です。神ご自身が三位一体の神です。一人でいたことはあられませんが、完全性、永遠の関係、永遠に続く、共通の結合。そして神にとって、すべてのものはこれまでも、そしてこれからも永遠にひとつです。つまり、父なる神と子なる神と聖霊なる神は、これまで意見の相違がありません。完璧な結合です。しかし、墮落した人間である私たちは自分自身が誰とも完全な結びつきがありません。でしょ？ だから、聖書的な友情を育むには、多くの努力が必要なのです。多くの方は、その働きに関わる献身を拒むからだだと思います。しかし、神がこのようにされたのには理由があります。そして、その理由は私たちのためです。「伝道者の書 4 章」、9 節から 12 節に記されています。神の御言葉は仰られます。

一伝道者 4 : 9 ー

二人は一人よりもまさっている。二人の労苦には、良い報いがあるからだ。

一伝道者 4 : 10 ー

どちらかが倒れるときには、一人がその仲間を起こす。倒れても起こしてくれる者のいないひとりぼっちの人はかわいそうだ。

一伝道者 4 : 11 ー

また、二人が一緒に寝ると温くなる。一人ではどうして温くなるだろうか。

一伝道者 4 : 12 ー

一人なら打ち負かされても、二人なら立ち向かえる。三つ燃りの糸は簡単には切れない。

これらの聖句は、友人を持つことの価値を示すほんの一例に過ぎません。神の御言葉は、その人にとってより良いこと、良い報いが得られることを教えています。私たちは、他の人が倒れると助け起こすことができ、互いに暖め合い、抑圧者に耐え、そして共に強くなる。一人だけでは、このような守備は得られません。どんなに自分が強いと思っても、孤独を選ぶことがどれほど致命的かを知るまで時間はかかりません。私たちが孤独で孤立していることを重んじるとき、知恵の書がどのように私たちに露呈するかを耳を傾けてください。この真理は、「箴言 18 章 1 節」にあります。神の御言葉は仰られます。

一箴言 18 : 1 ー

自らを閉ざす者は自分の欲望のままに求め、すべての知性と仲たがいです。

これが結論です。"自分自身の欲望"それが自分のしたいこと。どうしてそうなるのか？ おお、たぶん努力はいりません。自分には何の負担もない。自分は誰かに調べられる必要がない。人生の裁判官と陪審員は私。すべて解決しました。この節の後半を見てください。「すべての知性と仲たがいです。」これが非常に物語っています。事実、この「箴言」の後半部分こそ、私たちこの教会の指導者として、経験し過ぎたことです。特に聖書の指導セッションの実施について。そのような会合で起こることは、聖句に賢明な判断を委ねることによって、私たちが敵になってしまうのです。紅海が分かれるような明瞭な神の御言葉の中のさまざまな例や概要、命令を私たちはすべて用います。彼らの多くは、神と戦っていることに気づかず、私たちに怒り狂う。私が手助けしましょう。以前私は、神に対して激怒しました。あまり良い結果にならなかった。そのたびに失敗を繰り返してきました。私たちが主に対して激怒すると、結局どうなるかわかりますか？ 実際、自分たちのプライドのせいで、主の御前から去ってしまう。すると、どうなると思います？ 少し物事がうまくいって、自分がコントロールしていると思い、そして飛び上がって、すべての終わりにあの有名な歌を歌えると信じる。♪僕は、自分のやり方でやったんだ~~♪ そう考えます。ほら、みんなそう考えます。しかし聖書は語ります。

「人の目にはまっすぐに見えるが、その終わりが死となる道がある。」(箴言 14 : 12 / 16 : 25)

繰り返しますが、これは公言するクリスチャンについてです。そして、悲しいのは、この激しい怒りのせいで、私たちが何をせねばならなかったか？ 聖書的な指導を制限する。現在は、複数の前提条件を実行し完

了したのち、徹底したケースバイケースで行います。ご存知その裏で、私の命は危険にさらされました。皆さんの幾人かは、その詳細をご存知でしょ。そんなくだらないものを私の家に持ち込んで、ええ、そうです。想像してみてください。すべては、多くのクリスチャンが自分自身の欲望を追求しながら神の御言葉の賢明な判断に逆らうことを選んだからです。しかし、私たちが孤立している人々に対処する話に戻しましょう。問題は、あなたの孤立が主にどのように喜ばれるかです。誰も必要としないというこの態度は、イエスをどのように喜ばせるのか？ このような振る舞いは、神の御言葉に反します。これをする多くのクリスチャン達が、すべてのことから自分を孤立させるのではないのを知ってください。そうではなく、彼らは兄弟姉妹たちから孤立するのです。でも多くの場合、彼らが世に多くの友がいるのが分かります。彼らは一日中彼らと話し、一緒にいることができます。なぜか？ なぜなら、彼らにはすべての共通点があるのだから。彼らは賢明な判断には怒り狂うけれど、どういうわけか愚かさをもてなすのが大好き。そう、私たちは皆、そうだったし、そして、誰でもそうなれます。でもそこに留まるなら、私たちはどんどん弱っていきます。またそれは、私たちが友好関係に選ばうと考える敬虔な人にとって、私たちが好ましくない存在にします。「なぜ私があなたと友達にならなければならないの？」それは不愉快です。クリスチャンの中には、こう考える人もいるかもしれません。「そもそも最初からそうしたいんだよ。」ああ、気をつけてください。おそらく主は、あなたをサタンに引き渡されたのだから。悲しいことにこの世の友を多く持つことは、どんなクリスチャンにも影響を与えるでしょう。「第一コリント人への手紙 15 章 33 節」に記されています。神の御言葉をお読みします。

一コリント 15 : 33

惑わされてはいけません。「悪い交際は良い習慣を損なう」のです。

私たちが世の人々と関わらないと言っているわけではありません。もちろん関わります。常に関わっています。しかし、私たちが付き合う仲間は私たちに影響を与えます。これは誇張しても言い過ぎではありません。考えてみてください。たとえ、私たちの邪悪な仲間、付き合っているものが電話や、テレビ、コンピュータの画面であっても、悪の仲間は良い習慣を堕落させます。悪をもてなすことは、私たちが堕落させます。でもそうすると、繰り返しますが、聖書的な友情があなたが求めているものではないから、このすべてについて、あなたはどう向き合い、どう挑むのか。これは悲しい状態です。それが、主にあって成長することから私たちが奪います。「箴言」に戻ります。27 章 17 節、私たちはこの聖句をよく知っています。神の御言葉をお読みします。

一箴言 27 : 17

鉄は鉄によって研がれ、人はその友によって研がれる。

そしてこの一節については、古くからの注解者に語らせましょう。その注釈は、少しの言葉で全てを物語ります。引用します。「一人でいる男は人ではない。彼は退屈だ。とてもぶっきらぼう。しかし、もし仲間がやってきて、その存在、話し方、模範によって彼を活気づけるなら、その行為によって彼は非常に研ぎ澄まされ、一人でいたときよりもずっと快適で、自信に満ち、巧みで、優れた人間になる。」そして、この研ぎ澄まされる過程には摩擦がつきものであることも知っておくべきです。でも、それが故に双方がよりよくなります。私たちは皆、それが必要です。この事実を受け入れることができれば、賢明な判断を拒否することはないでしょう。喜んで受け入れます。「箴言 27 章 9 節」に記されています。神の御言葉をお読みします。

一箴言 27 : 9

香油も香も心を喜ばせる。友の慰めは自分の考えにまさる。

聖書的な友情に主を褒め称えます。私にとって、それは数少ないけれど、誠実な友人たちの助言でした。神は、私を自分自身から遠ざけ、私の盲点をチェックするために用いられ、今も用い続けておられます。そして大惨事から救ってくださいました。彼らにとっても感謝しています。私たちが座って神の事柄について語り、神が仰られたことを行うとき、たとえば互いに重荷を負い合うと、おお、なんと、神はそれを尊んでくださいます。この一節が意味するのはこういうことです。

「二人か三人がわたしの名において集まっているところには、わたしもその中に入っています。」(マタイ

18:20)

聞いてください。これがそのことを保証します。偉大なる"わたしはある"が、その中におられる。偉大なる"わたしはある"とは誰か？ 主のもう一つの名前は？『力ある助言者。』あなたがたが共に座って、神のことについて話し合い始める。すると、いろいろなことが浮かんで来ます。叡智が来ます。そしてあなたはこうなります。「ああ、なんてこと。そんなふうには思えなかった。」そして、点と点がつながり始める。なんと。なぜか？ 力ある助言者が私たちの中におられるから。それが理由です。これが聖書的友情の原動力です。私たちはそれを歓迎すべきです。そして、神の助言によって、私たちは神の友をどのように選ぶべきかが教えられています。「箴言」が続けます。12章26節、神の御言葉をお読みします。

一箴言 12:26一

正しい人はその友の道案内。悪しき者の道は自らを迷わせる。

賢明な選択をするか、あるいは、たとえそれが携帯電話であっても、邪悪な仲間には迷わされるか。だから電話やコンピューターには"制限"って書いてあります。制限をかけることができるんですよね？制限をかける人はどれくらいいます？ 分かる？ ー(笑)ー 私たちは、神の御言葉の知恵で、そのような友人候補を吟味せねばなりません。神の御言葉がすべての基準です。聖書的な友情と人選に関連して、それがどのようなものであるかは、彼らの性格に関係します。では、先ほども言ったように、神の御言葉はこのプロセスにおいて私たちに指針を与えてくれる基準です。しかし、私たちが最初にすべきことは、そうした神の友としての特性を備えていることを確認することで、私たちの人格が神の御言葉と一致していると考えられること。聖句の中の、私たちが心に刻み自問できる特徴をいくつか挙げてみましょう。『私は友情に値するか？』その質問がわかりますか？ 心に刻んでおいてください。「私は友情に値するか？」そう、私たちの誰もが完璧ではありません。私たちのあり方や身のこなし方は、私たちが何者であるか、そして私たちの人格が神にふさわしくあるかどうかを露呈します。では、いってみよう。私は尋ねます。『私は友情に値するか？』

まず、一般論として、

- 1:「私は御霊の実を表しているのか？」
- 2:「私は怒りっぽい人間なのか？」
- 3:「私はお節介で、たくさんの友人が必要なのか？」
- 4:「私はいつも隣の家にいるのか？」
- 5:「犯した罪を過去のものとして見ることができるのか？」
- 6:「私は噂話や陰口をするのか？」
- 7:「私は愚かな仲間と付き合っているのか？」
- 8:「私は忠実か？」
- 9:「私は信頼できるのか、それともただの厄介者なのか？」
- 10:「私はいつでも愛することができるのか？」

もうお分かりいただけたでしょう。そしておそらく、私たちは皆、有罪となるべきです。しかし、落胆してはいけません。なぜなら、毎日経験するこのプロセスを辿る中、私たちが謙虚になり、自分自身を吟味し、自分が友情に値する人間であることを確かめようとするなら、私たちがそうするなら、主がそばに来て、神における関係を築き、私たちが忠実な友を紅海が分かれるほど明確に選び、神によって定められたものにしていただきます。そして、私たちがすでにその中で歩んでいるのなら、ダビデとヨナタンのように、その友情は即座に生まれることもあります。つまり、個人的なことですけど、私がH-1を降りてエヴァの家に向かいながら、そして私がカーブを降りると、もう一人のオートバイ(ブルルーン)に乗った男が、隣り合わせ。私はこうです。「う～ん。あのバイクはやかましいけど、素敵だな。」そして、信号から信号へ、信号か

ら信号へと話を持っていく。一緒に転がしながら、連絡先を交換して、テキストメッセージを送ったりして、次の一週間とかで、私たちはまた出くわす。別途3回も。それ以前に彼を見たことはないのに、また3回も。最後に私たちは会う約束をして、ノースに向かい、彼は朝食に連れて行ってくれました。そこで一緒に話し出して、分かったのは、彼は兄弟で、21年目の牧師。ね？ 鉄は鉄によって研がれる。私は、「おお！！本当の家族なのか！！」それが神のご方法です。神聖な係わり合い。キット牧師。彼は今、後ろにいます。「立ってください！友よ。」一拍手ー それだけでなく、彼は陸軍の少佐で、軍隊での経験があります。あなたの働きに感謝します。一拍手ー 彼は、私の母の故郷の近くの隣町で育ちました。仰天しましたよ。すべての共通点に。紅海を分けられた明確さでしょ。ええ、彼がそこにいるからこう思っているのは分かっています。「なんで俺のこと全部話すんだ？」一（笑）ー それが友達のすることだよ！！一（笑）ー 全部話しちゃうぞ！！一（笑）ー 彼は私の7ブロック先に住んでいます。（会衆：うわ～！！）

あり得ません。そのことに主を褒め称えます。しかし、ほとんどの場合、友情は投資です。そしてその見返りは、私たちがそこに何を注ぎ込むかによって決まることが多いです。それには時間がかかります。しかし、やがて、そういう友情の構築は、多くの実を結ぶ長期にわたる信頼へと繋がります。このことを、本文の最後の節と関連づけることができます。「ヨハネの福音書 15 章 15 節」、御言葉をお読みします。

ーヨハネ 15：15ー

わたしはもう、あなたがたをしもべとは呼びません。しもべなら主人が何をするのか知らないからです。わたしはあなたがたを友と呼びました。

父から聞いたことをすべて、あなたがたには知らせたからです。ここでまた、イエスは、忠実な 11 人と共にいて、彼らがイエスの友であるだけでなくもう奴隷とは呼ばないと説明されます。なぜか？ 彼らは主人の御思いを知り、それを教えられているから。イエスが表現しておられるのは、内密に彼らと情報を共有しておられること。そして、イエスは神であられるから、彼らに語られたことが彼らの記憶に甦るので、最後に、彼らの信頼を封印されます。これがどのように機能するかわかりますか？でも、イエスの友と呼ばれた私たち全員にとって、私たちはこのことを考えるべきです。イエスに対する 11 人の友情は、イエスが彼らに教えたことに結びついていました。それが分かりますか？ イエスは彼らと共に過ごされました。これは時間をかけて築かれた関係です。試練や試しも含め、いわば友情に値する人間として形成するためのものでした。そして、こう考えてほしいのです。神の友には、敬虔なアクセス、敬虔な洞察が与えられる。「創世記 18 章 17 節」に記されています。アブラハムが信じてからしばらくして、義と認められました。神の御言葉をお読みします。

ー創世記 18：17ー

主はこう考えられた。「わたしは、自分がしようとしていることを、アブラハムに隠しておくべきだろうか。」

その記述を読んでください。アブラハムは神の御言葉を信じて、義とされた後、神が何をなさるかを告げられた。そして聖句の後半には、彼が神の友と呼ばれていたことが記されています。そして、神の友として、神に関するより深い事柄を託されているように、私たちの敬虔な友は、私たち一人ひとりに関する深い事柄を託されています。また、たとえイエスが、もはや、しもべや奴隷と呼ばれなかったとしても、私たちが考えるべきは、イエスの友であった者たちが、一度たりとも自分のことをしもべや奴隷以上の存在だと考えなかったこと。決して。実際、聖書で、彼らがよく使う言葉は、「イエス・キリストの契約奴隷」これは、彼らがこの神聖な関係における自分たちの立場を明確に理解していたことを示しています。彼らは明らかに要点をつかんでいました。そして、私たちはこのことを理解するだけでなく、人間関係に関しての自分の立場を理解する必要があります。なぜか？ 私たちは常にしもべであり続けるべきだから。「ガラテヤ人への手紙 5 章」13 節から 14 節に記されています。御言葉をお読みします。

ーガラテヤ 5：13ー

兄弟たち。あなたがたは自由を与えられるために召されたのです。ただ、その自由を肉の働く機会としないで、愛をもって互いに仕え合いなさい。

皆さん、それが分かりますか？「愛をもって互いに仕え合いなさい。」

ーガラテヤ 5：14ー

律法全体は、「あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい」という一つのことばで全うされるのです。

悲しいのは、この掟がこんにちほとんど果たされていないことです。というのも、私たちのほとんどは隣人のことを知らないからです。でしょ？ 私たちが神の友であることを隣人に示して、聖霊が働かれる余地さえ私たちは与えていません。特にこの領域で、私たち全員がすべきことがたくさんあります。私たちにはよく考えるべきことがたくさんあります。聖書的友情は非常に独特です。なぜなら、真の生ける神がその土台であることが必要だからです。そして個人として、私たちは自分自身を調べなければなりません。私たちは家庭内でこのような友情を持ち、どこに行ってもその特徴をすべて発揮できるようならなければなりません。毎週毎週日曜日に教会に来ていながら、真の意味で主イエスの友になれないのは恥です。時間を無駄にするのはやめてください。私たちは信仰において大胆でなければならず、人々を改心させることに過度にこだわらず、しかし、その代わりに、誰が私たちが主の友と呼んでいるのかについて、人々と会話することから始めましょう。そして、イエスを知らない人には、誰かが近づいてきて、イエスについて話せば、耳を傾けたほうがいいです。なぜなら、あなたの魂がかかっているから。主が遅くなられるなら、私たち全員に死が訪れます。あなたの魂の救いのためにイエスが必要です。あなたが今までそうでないなら、イエス・キリストの福音によって、今日イエスを選び、救われるのを勧めします。イエス・キリストの福音とは、聖書に書いてある通り、キリストが私たちの罪のために死んでくださったこと、聖書に書いてある通り、イエスは葬られ、3日目によみがえられたこと。(Iコリント 15:1-4 参照)

聖書に書いてある通り、イエスが戻ってこられるのを私たちは知っています。(Iテサロニケ 4：15ー17 参照)

救われるのは、ABCくらいシンプルです。

A：まず、自分が神に背いた罪びとで救い主が必要だと、Acknowledge/認識する。

その救い主が、イエス・キリストです。

ーローマ人への手紙3章10節ー

義人(正しい者)はいない。一人もいない。

ーローマ人への手紙3章23節ー

すべての人は罪を犯して、神の栄光を受けることができず、

つまり、私たちは誰ひとりとして、自分の功績では、神の国に受け入れられることはありません。6章23節にもあるように、聖書は語ります。

ーローマ人への手紙6章23節ー

罪の報酬は死です。しかし神の賜物(贈り物)は私たちの主キリスト・イエスによる永遠のいのちです。

それがAを表します。Bは、B：Believe/信じる。Cは、C：Confess/ (口で)告白する。

両方、「ローマ人への手紙」10章9節と10節、神の御言葉が語ります。

ーローマ人への手紙10章9節ー

「あなたの口でイエスは主と告白しあなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせたと信じるなら、

あなたは救われるからです。」

ーローマ人への手紙10章10節ー

人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです。

これは救われ、イエスにあなたを友と呼んでもらう機会を得るため最もシンプルな方法です。神は私たち誰しもが神と和解することを望んでおられます。私たちへの神の愛が故に。「第二ペテロの手紙3章9節」がそれを詳細に語ります。神の御言葉をお読みします。

ー II ペテロ 3 : 9 ー

主は、ある人たちが遅れていると誤解しているように、約束したことを遅らせているのではなく、あなたに対して忍耐しておられるのです。だれも滅びることがなく、すべての人が悔い改めに進むことを望んでおられるのです。

時は迫っています。明日がある保証はありません。このメッセージを学び終えることは約束されていません。ですからこれを考えてください。私たちと一緒にこの歌を歌えるように。いつくしみ深き、ともなるイエスは♪ *What a Friend We Have in Jesus* ♪ 私はもう歌いませんよ。ご起立ください。カポノ、上がってきてください。一緒に祈りましょう。

天のお父様、ありがとうございます。主よ、あなたの御言葉を、厳しい言葉ですが、必要な御言葉です。私たちは皆、このことに留意し、御言葉のより良い管理者になる必要があります。ますます時間が短くなっていくこの時代に、私たちはより積極的に、より良くあなたの働きをする必要があります。ですから、あなたの聖霊の御力によって私たちを励まし、強め、常にあなたの御心を求めながら、あなたの御言葉と一致させるようにしてください。私たちはあなたを愛し、あなたに感謝します。救世主イエス・キリストの力強い御名によって祈ります。アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師 カルバリー・カネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii 筆記 hukuinn7